

## 令和 6 年度 第 2 回学校関係者評価委員会

日時：令和 7 年 3 月 28 日（金）19：00～19：50

場所：長崎医療技術専門学校 会議室

出席者：学校関係者評価委員 4 名：小林小夜子、有福浩二、大坪 健、栗田千栄

本校職員 6 名：淡野、韋、林、牧山、荒木、山内

欠席者：吉岡正恒

記録：山内

### 1. 校長挨拶

#### ・国家試験受験結果報告

PT（理学療法）現役 1 名、OT（作業療法）現役 4 名が不合格。既卒者は全員合格。

新卒・既卒合わせた合格率：PT 96.8%、OT 80.6%（全国平均を上回る）。

不合格者へのフォロー体制を整備予定。

#### ・入学予定者の状況

PT 学科が定員未満、全体として入学者数が定員の 50%未満。

PT 23 名、OT 16 名の計 39 名。4 月時点で在籍学生数は 3 学年合わせて 167 名。

長崎リハ病院でのオープンキャンパスは好評。高校イベントに合わせた活動も効果あり。

#### ・次年度休学者がゼロについての報告

学生の方向性が明確になり、早期の進路変更が多くなっている。

### 2. 出席者紹介（自己紹介）

### 3. 開会

当委員会は第 6 条の規定による出席数を満たしており、本委員会は適切に成立していることの報告。

### 4. 委員長選出

小林先生が委員長に選出され、異議なし。

### 5. 前回会議後の報告

#### ・前回会議議事録の確認

#### ・広報誌 POTNuture（第 12 号）について紹介

### 6. 審議事項

学校自己評価について（報告者：荒木）

#### ・実施概要

2/28～3/12 の期間で教職員 16 名にアンケートを実施。

全体平均は 3.4 で例年と大きな差はなし。

#### ・評価結果の詳細

学生募集に関する評価が 3.4（前年よりやや低下）。

財務評価が 2 点台に低下（中長期の財政安定性に不安）。

人事・給与の項目は 2.8。有給取得困難、振替休日が取れないことが影響。

能力開発に関する評価も 2.9 と低いまま。外部研修や教員間研修の不足が課題。

学生支援（課外活動）も 2.9。コロナ禍による活動減少の影響が残る。

有福）去年に比べ改善はされているのかなという印象。財務の部分は難しいところではあると思う。

小林）学校運営の人事・給与部分について、人手不足から有給が取れないということが一番の問題なの

か？教員は何名いるのか？

韋) 校長を含めて 13 名。1 名休職している。

小林) その分で回らないということか？

韋) 休職者は理学療法学科の教員であるが、学校全体の業務を担っているため各教員に負担がかかっていると思われる。

荒木) 土日が完全休みとなっているが、土曜日などにオープンキャンパスなどもあり、振り休などが取れにくくなったこともあるのではないかな。

有福) 休日出勤となった場合、休みはとるようにしているのか？

小林) 振休の場合は出勤予定の前後でとるようにしていかなないと取れないのではないかな？

韋) 本校のルールとして 3 か月以内に取れるようにしている。

小林) 勤務がわかった時点でコマを埋めるように振休を入れるようにしないと取れなくなっていくのではないかな？

林) いつでもとってよいというのが逆に取れにくい状況となっている気がする。小林先生が言われるように、出勤がわかっているのであれば前後に休みをいれるという調整がなされていないのが問題であると私も感じる。

小林) 振休が取れないときには代休扱いになるのでお金がかかる。それは財務の状況を見ると難しいので、代休扱いにならないように、しっかり休みはとるようにしていかなないと改善は難しいのではないかな。職員が働く意欲を持てるように振休が取れないと超過勤務扱いとなるので、学生も含めて全体で休むくらいのことが必要となるのではないかな。

有福) 休む人と休まない人がいれば不公平が出てくる可能性がある。

小林) 事務は振り休が取りやすい。教員はとりにくい。期間を 3 か月にしても取りにくいのであれば、行事の時には全員出てきて全員同じように休むという判断をしないといけないのではないかな。

林) どれくらい休みを取る取り組みを行うか次第である。学年によってはタイトなスケジュールで実施しにくい学年もある。不可能ではないが誰でも取りやすい環境に変えていく努力は必要と思う。

大坪) 当院では業務時間外の仕事をするようであれば、働き方を考えるようにしており、職員のワークライフバランスを考えながら調整をしている。

林) 放課後や昼休みに学生と関わろうとすれば時間内に業務を終えることができなかつたりする。

小林) 例えば小学校や中学校では、行事の時には全教職員が出てきて代休は全員でとるようにしているが、こちらの学校ではオープンキャンパスのどこかで 1, 2 回くらい全員で代休をとるようなことをチャレンジしてみてもどうか？

林) 後期時間割を調整する時に休みを設ける努力はできると思われる。

有福) 実習中や夏休み中などに当番制などで代休を取るなどできないのか？

荒木) 長期の休みのときにチャレンジするのは現実的かもしれない。

林) ここ数年は盆休みと冬休みは他の企業より長い。

小林) 今までと違う休みの取り方をチャレンジしてみる必要があるのではないかなと思う。

大坪) 学生の受け入れ募集の部分について質問。過去から見たら下がっているということであるが、大学への進学が多くなってきているということだが専門学校を選ぶメリットというのがあるのか？

荒木) 一番強く伝えているのは最短コースで臨床へ出ることができることを伝えている。

大坪) 学費についてはどうか？

韋) 100 万円くらいは差があり専門学校の方が安い。保護者向けにはそこが重要かもしれない。

小林) 授業料を下げるのにどれくらいメリットがあるのかとを感じる。

韋) プライスダウンの時代ではないのかと感じている。給付がもらえるので、その分で私立の大学に行くこともあるようであり、専門学校にメリットに影響している。

小林) 同じような専門学校が県内にどれくらいあるのか？

韋) 理学療法学科がある専門学校が本校を入れて 3 校、作業療法学科がある学校が 2 校、大学が 1 校である。

栗田) オープンキャンパスに参加した高校生は入学する確率が高いのか？

韋) 参加した学生は入学率が高い。8 割。次年度は 12 回に増やしてナイトと学生が参加する会を増やして行う予定。内容は毎回変えて飽きさせないように努力している。新しいことの試みの一つとして、長崎リハで行ったような病院での開催もしてみた。3 月の開催としては参加者が多かったので、インパクトは強かったと思われる。

韋) ボランティアの点数が低い、病院などではボランティアなどに関わる活動はいかがか？

大坪) コロナ禍以降施設の夏祭りなども少なくなっており、開催したとしても学生のボランティアは受け入れていない。

韋) 外部からの依頼が少なくなっている。

大坪) 迎える側の業務なども出てくるため負担が多くなる。

牧山) 来年度から学生への案内を復活させなければと考えている。

有福) ボランティアの内容は。

牧山) 夏祭り、講演会の子どもの相手、おくんちなど文化に触れるボランティアなどを行っていた。

小林) そういうことを卒論でするということはないのか？

林) 以前は夏休みなどで各自でボランティアを行って課題として行っていたこともあった。そういう部分も含めて取り組みとしてできればという思いで実施したいという思いはある。

小林) ボランティアという形で入らせていただき、それをまとめてみんなの前で発表するという経験をさせてみると、本人のためにもなるし、学校の認知度としても大切なことではないか。

韋) 学校からも仕掛けを作って発信していく仕掛けなども考えていきたいと思う。

#### 総評

小林) 職業能力開発の部分について、職員がどういう研修をしたいと思っているのかについて、洗い出しをすることから始めるのが大事ではないか。まずそれを知ることが大事だと思う。学内でできることなのか、外に行かなければできないことなのかを見極めることが必要。

この度は学校評価の結果をもとに、いろいろ現状がよく把握できた。それに対する具体的な取り組みがいろいろ出たので、次回までにそれを一つでも実施してみようという取り組みをされるということでしょうか。

#### 7. 閉会

栗田さんが今回をもって退任。

#### 8. 謝辞 (校長)

淡野) ある程度強制しないといけないということを感じた。特に休日については取り組む必要性を感じた。改善できる点は改善していきたい。次回は何らかの報告ができるようにしたい。

#### ※次回開催についての案内

次回：令和 7 年 9 月 26 日（金）19：00～